

南極観測船ふじ

南極観測船ふじ開館30周年記念特別展

「南極大陸と南極観測船ふじの航跡～「ふじ」が教えてくれたこと～」

開催期間：平成27年7月18日（土）～平成27年9月27日（日）

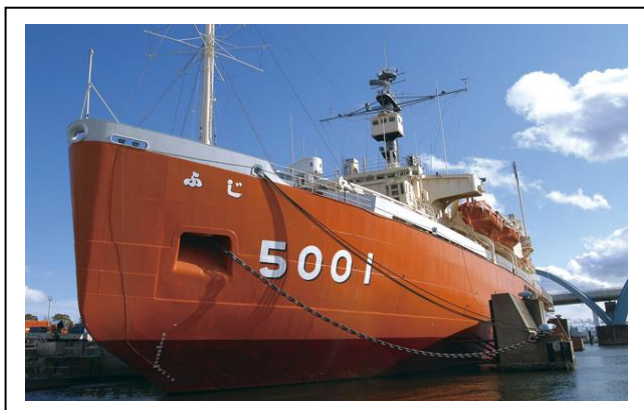


【企画展の内容・目的】

- 本特別展では「ふじ」の果たした役割や海洋気象・海流・氷海等、南極の自然は地球環境と密接な関係にあることを紹介し、そのうえで「南極の海洋環境の特徴」「南極に適した船の構造」「南極観測船の役割」「南極観測の意義」を学んで頂きました。
- 付帯事業の「南極教室」では、第55次日本南極地域観測隊の越冬隊長を講師に、南極のお話や昭和基地とのテレビ中継等を通じて南極観測と地球環境の関連性を紹介しました。「南極のお宝展」では、南極の経験者による思い出の品を“南極のお宝”として展示し、綺麗な冰山や珍しい海洋生物の写真や、南極のおせち料理等の展示や出品者自身による会場解説を実施し、南極の海洋環境や生態への興味を持って頂きました。
- 南極観測船ふじが活躍した期間の海洋観測・南極観測の成果を紹介し、南極観測を入口として地球環境問題について考えて頂く事を目的としました。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成27年7月18日（土）～平成27年9月27日（日）
- 開催場所：南極観測船ふじ
- 入場者数：51,842人



南極観測船ふじ 外観



企画展会場 入口



名古屋港ガーデンふ頭には実物の船を博物館とした「南極観測船ふじ」が係留されています。開館30周年を記念とした特別展として、入場前の広場から看板を設置し、周囲を賑わかせました。

中でも、記念撮影用の看板は、多数の来館者に利用されました。



船内の「南極の博物館」部分を特別展に合わせて改装し、特別展会場としました。

はじめに南極までの航海を紹介しました。南極へたどり着くまでに、赤道、暴風圏、氷海を通過するため、それぞれの海の特徴を紹介します。海を凍らせる南極のきびしい寒さは、冷たくて重い海水も大量に作りだします。この海水が海の底へ沈んで、かわりに海底から深層水が上がるため、海全体がかき回され、地球上全体を巡る深層海流を生み出しています。深層流には大きく2つの役割があり、1つは、赤道など熱帯地方で暖められた海水を冷やして、地球の穏やかな気候を保つこと。もう1つは、南極で作られた栄養分の濃い海水を世界の海に運んでいることです。

ふじは昭和基地が近づくとき、物資の輸送や基地の建設作業、南極の地質や海洋観測を支援する仕事がかかります。海水の成分の測定、海流・水温の測定、生物採取、電波観測、海上重力観測、気象観測、海底物理観測など、様々な調査が行われたことを紹介しました。



次はふじの構造です。ふじには暴風圏と氷海を超えるための設計がされています。荒れる海では、船の中の燃料タンクの燃料を動かすことで揺れを軽減したり、氷に閉じ込められないように船を揺らして氷を割る仕組みを紹介しました。船体構造や設計の紹介を通じて、南極に至る海域の過酷さや南氷洋の環境について知って頂きました。

南極に到着後は「ふじの果たした役割」として、南極観測の成果を紹介しました。南極観測では、気象、生物、地質、氷などの研究が行われ、ふじはそれに必要な基地建設の建材や生活必要物資の運搬を行いました。「触れる隕石」の展示は大人気でした。



ふじが行った海洋調査結果の紹介を通じて、南極海の海洋生物は爆発的に増えるため南極の陸上生物だけでなく、地球全体の海洋生物の生態系も支えていることを紹介しました。当初は南極そのものを調べることからスタートした南極観測でしたが、長年の観測の積み重ねにより、地球規模での大気中の二酸化炭素の増加傾向や、オゾン層の破壊によるオゾンホール観測、海洋観測による南極海の海水温度の上昇など、南極だけではなく地球全体に関わる重要な環境問題につながることを紹介し、南極観測を通じた地球環境の課題や海洋の現状について知って頂きました。

【来館者の声】

- 南極の海流が地球全体を巡っていることが勉強になった。
- 日本から南極までの間に、暴風圏や氷海があることを知った。
- 南極海を進むためのしゅくみが興味深かった。
- 本物の船内を回れたことが良かった。
- 海についてよく学べた。もっと海の事を知りたくなつた。
- 海は赤道付近になるとあたたかくなると知つた。
- 隕石にさわれたことは凄いいことだと思つた。
- 南極も同じ地球上で生命が生き続けている。今のままで変わらなければいい。
- 興味深かった。子供の学びになることを期待。

2. 関連事業の内容

■①南極教室

【開催日時】平成27年8月22日(土) 13:00～16:00

【開催場所】名古屋港ポートビル 講堂

【参加者数】34人

【実施内容・目的】

- 南極観測船ふじを見学後、第55次日本南極地域観測隊に越冬隊長として参加された牛尾収輝先生を講師として、南極の自然環境と、観測隊員として実感した南極大陸での生活も併せてわかりやすく解説していただきました。そして当館学芸員による「エンペラーペンギンの子育て」の話、南極昭和基地とのインターネットを用いた映像交信、南極の映画の上映を行い、最後に小中学生の参加者に修了証の授与を行いました。



ふじに隣接するポートビルで開催



ふじの見学 ボランティアによる解説



越冬隊長による南極深層海流の話



南極昭和基地とのテレビ交信

南極大陸は、海流や大気を通じて、多くの地球規模の環境問題を観測できる場所です。「南極教室」では、第55次日本南極地域観測隊越冬隊長による講演や、南極昭和基地とのテレビ交信を行い、南極での観測活動を紹介しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



会場には、実物の「南極の氷」や「南極観測隊の防寒具」「南極ペンギンの羽毛・卵」と南極を紹介するパネルを展示しました。南極の寒さは冷たい海流を作り出し、地球全体を周回します。そして南極で大量発生するプランクトンやオキアミが、南極の生態系だけではなく、地球全体の生態系を支えていることなどを紹介しました。



南極教室は、南極観測船ふじが現役時代に船内で開催されていた「ふじ大学」を再現したイベントです。当時のふじ大学では受講者に修了証を授与していたため、この南極教室でも小中学生には「南極教室修了証」を授与しました。修了証の授与式は、参加者に変な喜びがありました。

【来館者の声】

- 今後もこのようなイベントを企画してほしい。
- とても楽しかった
- 多くの小中学生に参加してもらおうと思う
- 昭和基地との交信は非常に楽しめた
- ペンギンの話もよかった

■②南極のお宝展 及び 南極トークと南極マジックの会

・記念講演会、パネルディスカッション

【開催日時】平成27年7月25日(土)～10月25日(日)

南極トークと南極マジックの会：8月16日・9月26日・10月11日

記念講演会、パネルディスカッション：10月18日(日)

【開催場所】名古屋港ポートビル B会議室

【参加者数】9,650人

【実施内容・目的】

- 元南極観測隊の方たちからなる「南極OB会」と当財団が共催で、それぞれが所有している「南極にまつわるお宝」を出品。展示物にまつわるエピソードを披露していただく「南極トーク」や子供向けのイベント「南極マジック」、アマチュア無線通信や講演会、パネルディスカッションなどを開催しました。



会場入り口の様子



展示会場の様子



元南極観測隊の方たちからなる「南極OB会」の方が個人で所有している「南極にまつわるお宝」を展示しました。南極の海や冰山などの写真や、南極の岩石、海図、料理人のおせち料理の再現、帽子、現地で作った雪上車の模型などが出品されました。展示期間中は、南極OB会の方が随時来場して、展示の解説をしていただきました。南極や船上での苦労話や面白かったエピソードなど、様々な話をしていただき、南極への興味や南極観測という船舶の持つ役割の一つについて知って頂きました。



期間中は様々な関連イベントが開催されました。10月18日（日）は記念講演会・パネルディスカッションが開催され、「南極はどのようにあるべきか」「教育にはどのように活かすべきか」など白熱した討論が行われ、大盛況でした。



また、「南極の事をよく知らない人にも南極の事を楽しんでもらおう」と南極の話とマジックショーを組み合わせた「南極トークと南極マジックの会」を、8月16日・9月26日・10月11日の3回開催しました。

他に、昭和基地やふじ船内で行われていたアマチュア無線の関係者による臨時アマチュア無線局の開設および交信を行い、ふじの30周年についての情報などを全世界に向けて発信しました。

【来館者の声】

- 知らないことがたくさんで驚いた。
- 写真が面白く見入ってしまった。
- 船での長期航海は大変そうだった。
- 自分も行ってみたいと思った。
- めったに見れないものを見れたし、さわることができた。

【事業全体のまとめ】

「海の学び ミュージアムサポート」を活用したことにより、大規模な展示と、多くの付帯事業を行うことができました。「ふじが果たした役割」を、運搬船としての役割だけでなく、海洋観測を行ったことや、なぜ南極観測を行うのか？という観測の意義、そして南極そのものが海・大気を通じて地球全体の環境問題と密接していることから、海洋資源をはじめとした自然を守る大切さまでを、一連のストーリーとして構成することができ、「海洋」の視点で紹介することでこれまでの展示内容からさらに深い学びの場とすることが出来ました。また、付帯事業を多く開催できたことで、展示だけでは伝えきれなかった掘り下げた話などを来館者に伝えることができました。「南極の海流が地球全体を巡っていることが勉強になった。」「海についてよく学べた。もっと海の事を知りたくなった。」「南極も同じ地球上で生命が生き続けている。今のままで変わらなければいい。」などの感想を得られたことから、南極観測の紹介を通じた海の学びの効果や実施意義も実感することが出来ました。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 国立極地研究所	資料提供・講師派遣
2. 防衛省海上自衛隊 南極観測支援班	資料提供
3. 南極 OB 会	資料提供・講師派遣・展示解説・宣伝協力
4. 愛知県教育委員会	後援名義・宣伝協力
5. 名古屋市教育委員会	後援名義・宣伝協力
6. 南極観測船ふじ解説ボランティア	展示解説

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 南極観測船ふじWEB サイト	南極観測船ふじ開館 30 周年記念 南極大陸と南極観測船ふじの航跡 ～「ふじ」が教えてくれたこと 平成 27 年 7 月 10 日～9 月 27 日
2. 南極観測船ふじWEB サイト	南極教室参加者募集 平成 27 年 7 月 21 日～8 月 22 日
3. 南極観測船ふじWEB サイト	「南極のお宝展」を開催します 平成 27 年 7 月 21 日～10 月 25 日
4. にぎやか情報誌	「南極観測船ふじ開館 30 周年記念特別展」 「南極のお宝展」 「南極教室」 2015.7～9 月 Vol.31 3 件掲載

以上